

WIN CONCORD
ウィンコード

NEWSLETTER

2008
vol.18



千の鏡に映った日本の顔

ザボクシェツカ ズザンナ（ポーランド）

昔から、遠くてエキゾチックな日本に深い興味があったから、日本学科に入学しました。そこで、一生懸命、日本について勉強しました。5年間で、日本語、日本文学、日本史、映画、演劇、美術、写真、先生方と先輩の話 — 千の鏡に映った日本の顔 — を見る事ができました。

勉強しながら、だんだん頭の中に日本のイメージができてきました。漢字と敬語、城と侍、芸者、歌舞伎、書道、茶道、水墨画、陶芸、寝殿造りの家からイメージする日本がある一方で、東京の超高層ビルやハイテクの日本。ポーランドで体験できなくて、想像もできなかったことが私の好奇心をそそりました。例えば、おにぎりの味や新しい畳の香りや温泉に入る感じなどです。日本へ行けると分かった瞬間、心の中で「やっと本物が見られる！」と思い非常に感動しました。

日本に来て、あっという間に5ヶ月がたちました。私にとっての日本は、ショックをうけることより新しいことの発見がよりたくさんあり、頭の

中のイメージがどんどん変わりつつあります。

これらは和歌山で出会った優しい方々のおかげです。皆さんは自分の時間をさき、心をこめて日本と日本の伝統を見せてくれました。そのおかげで和歌山での留学はひとつの巨大なレッスンになりました。

5ヶ月で京都、奈良、東京、大阪、神戸、姫路だけではなく、和歌山県の高野山の紅葉、那智の滝、白浜の白い砂、熊野の杉の森、南部の梅林の美しさを見せていただきました。それに加えて、日本の伝統もいっぱい体験できました。文楽の人形と太夫の語りに魅了され、歌舞伎役者の優美な動きと渦巻く色にうっとりしていました。茶道、生け花、着物、漆器の飾り方などを教わったり体験する機会もありました。同じことについて本を読むのと自分の目で見られることは大違いです。自分で味わったことは忘れられないことになり、一番良い勉強になると思います。

本を読んだだけでは、勉強出来ないことがいっぱいあります。体験しないとわからないことがたくさんあります。例えば日本に来て最初の一週間に体験したことです。その日夜遅く、初めての地震を経験してしまいました。かなり弱かったけれども何もかもが突然震えました。15分たってから、



外からサイレンと何と喋っているのかわからない言葉が聞こえてきました。地震に関する情報と思いましたが、何をしなければならぬか分からず、不安を感じて眠れませんでした。次の日、友達がタベのサイレンが近くの病院の救急車のものだと教えてくれました。ポーランドの救急車のサイレンと少し違いますから地震に関するサイレンかと間違えてしまいました。

他にも、日本に来ないと想像できないことがいっぱいあります。それはほとんど感覚に関することです。だいたい香りと味のことです。ポーランドと日本の文化を比べて、一番異なることは料理文化だと思います。

ポーランドの主食はパン。ジャガイモ、肉、野菜、麺類などで、生のものはめったに食べません。逆に、日本の主食はご飯、魚と他の海のもので、生で食べられるものはかなりいっぱいあります。料理の作り方も違います。ポーランドでは焼いたものが人気があって、日本のように揚げたものはあまり食べません。言うまでもなく、味もずいぶん違います。ポーランドではもっと辛くて強い味が主流ですが、日本では甘くて薄い味が好まれます。日本に来たことのないポーランド人に、日本の味をどんなにしても言葉で伝えることは出来ません。例えば、すき焼きの味を伝えることができません。WINの皆さんは、私に様々な料理を味わう機会を与えてくれました。美味しくて野菜と肉がいっぱいのしゃぶしゃぶ、甘くてうまいすき焼き、お好み焼き、おでん、なれずし、温泉でゆでた卵、根来寺の鯛焼き、とれとれ市場の寿司と貝などはその一部です。

日本に来たおかげで多くの人と出会えました。日本人だけではなくて、フランス、チリ、オーストラリア、マレーシア、中国、韓国とベトナムから来た人達と友達になりました。その友達と話しながら、私にとって当たり前のことでも、他の皆にとっては、当たり前ではないのだと気付きました。一生懸命にがんばっても説明できないことは香りと味ばかりではないのです。例えば、どのようにしたらオーストラリア人に雪がいっぱいの森を散歩する、あるいはスキーをする感覚を説明できるのでしょうか。外の気温がマイナスになると空気の匂いが変わるということを説明できるのでしょうか。私には砂漠の匂いが想像つかないのと同じように。

さらに加えて、私達は無意識的に、似ている点よりも異なる点を探すということにも気付きました。「違えば違うほどよい」という感じです。珍しいことは面白いと思われています。普通、大きな



目立っている違いしか見えませんが、小さな日常的な違いも非常に面白いと思います。私に見える日本はこのような違いがいっぱいです。空にはトビ、川にはサギ、地面には視覚障害者のための黄色の線ときれいに作った水路の入り口、道には自転車で行く80歳のお婆さんたち、大学では授業中寝ている学生達は驚きの始まりにすぎません。工場の前で「安全運転」の旗を持っている社長や松山城へ行くリフトで乗客を手伝う四人のスタッフなどの姿はポーランドで絶対に見られないものです。音楽が出るゴミ収集車、交差点で、後何秒で信号が変わるかを教えてくれる電子表示機を初めて見た時もびっくりしました。

友達も驚いたことについて教えてくれました。例えば、午後の三時までしか開いていない銀行や「箱の中の箱のケーキ」全部を何回も包む日本の習慣について関西空港には、海外旅行する人が前もって旅行のおみやげを買える店があることや「仕事の前の残業」ということなどです。

「仕事の前の残業」というのは特に日本らしいと思います。ある会社は普通の残業を禁止されました。その結果、職員達は仕事を全部こなすため、仕事の二時間前に会社に来てする仕事をするようになりました。ポーランドでは、このようなことは起こりません。残業が禁止されると皆は「しかたがない」と思って諦めます。

私にとって、これらは全部、日本の色んな顔です。それらは全部ちょっとしたことです。ポーランド人の私から見ると大きな違いだと思います。日本にはこんな違いがいっぱいあります。そしてこのような文化も大事にしなければならないと思います。以前テレビで聞いた「文化を守って、違いを尊重しましょう」というモットーを忘れてはいけません。

私のふるさと

遅 虹 (中国)



みなさん、こんにちは。私は中国の山東省からまいりました遅虹と申します。私のふるさとについて簡単に紹介いたします。

山東省の面積は15万7千平方キロメートルで、人口は9246万人です。済南は省都として、山東省の政治と文化の中心地とされています。泉と蓮と柳は済南のシンボルと言われます。北京五輪ヨットレースの開催地としての青島は強い経済力で注目されています。山東省には世界遺産が2つがあります。泰山と孔子に関する建築群です。1987年に、泰山はユネスコによって「世界の文化と自然遺産」に登録されました。1994年に、孔子に関する建築群もユネスコによって「世界の文化と自然遺産」に指定されました。

私の出身地はイボウ市です。「イ」という漢字はさんずいへんに明治維新の維で、ボウは御坊市の坊、お坊さんの坊です。名物はたこです。たこ焼きのたこじゃなくて、凧揚げのたこです。北京オリンピックのマスコットは「フーワー」と呼ばれる5つのキャラクターで構成されています。ニイニイというキャラクターのイメージはツバメの形をした凧です。日本では、お正月に凧揚げをしますが、中国では、春が凧揚げのシーズンです。穏やかな心地よい風が吹く季節は、凧揚げにぴったりです。私のふるさと、イボウ市では、毎年4月20日から国際凧揚げ大会が行われます。中国国内の人だけではなく、海外からもたくさん参加しています。世界各地の凧の愛好者がイボウに集まって、それぞれの国のユニークな凧でふるさとの空を飾ります。1984年から国際凧揚げ大会がスター

トしてから、いままでもう24年間続いてきました。今年の4月20日にも第25回国際凧揚げ大会が開幕され、5月3日までほかのいろいろなイベントもあります。凧の形は多種多様です。ツバメ、蝶々、蜻蛉、金魚、鷹などなど。竜頭ムカデはイボウ凧の代表と言われます。

もう一つ紹介しなければならない特産品は緑大根です。個人的には、野菜と言うより、果物といったほうがいいじゃないかなと思います。生で食べると、甘くて、ちょっと辛くて、歯ざわりがさくさくして、すごくおいしいです。

「百聞は一見にしかず」、もし皆さんが凧について興味があったら、あるいは緑大根をたべたかったら、ぜひぜひ山東省のイボウ市へ遊びに来てください!!!



我 慢

呉 怡柔 (台湾)

暖かい台湾で育った私は日本の冬が寒いと頭で理解できますが、寒いところでの実際の暮らしが想像できませんでした。大学院試験を受けるために、12月と3月に和歌山に二度来しました。が、その時は、短期滞在だったので、寒さについて、あまり深く考えませんでした。

今年の冬、本格的な日本の冬を経験しました。本当に日本の寒さに参りました。北海道大学に行く留学生はすごく偉いなぁと尊敬してしまいます。台北では、最低気温は8度ぐらいです。そんな日は、外をうろうろする人は少なかったです。みんな家で布団を抱えて、使い捨てカイロをお腹において、ホットココアを飲みました。だから、台湾人である私にとって、日本の冬の気温は私の耐えられる限界を超えたものなのです。

出かける時はすごく大変です。特に後期の授業はほぼ1コマからで朝が早い。強い寒風に吹かれながら、自転車を必死にこいで、北島橋を渡って

あえず我慢」という考えが浮かぶ前に、そんな「我慢」は本当に必要なのでしょうか？もう一度問い直してみてもいいのでしょうか。

アリフ ミジト (中国・新疆ウイグル自治区)

シルクロード (Silk Road) は、中国と地中海世界の間の歴史的な交易路を指します。絹の道とも呼ばれていて、それは貴重な奢侈品である絹が遠隔地貿易の対象であったことから「絹」に象徴されました。シルクロードは特にローマ帝国と秦漢帝国、あるいは大唐帝国の時代の東西交易が念頭に置かれることが多いですが、広くは近代（大航海時代）以前のユーラシア世界の全域にわたって行われた国際交易を指し、南北の交易路や海上の交易路をも含めています。シルクロードという語は、19 世紀にドイツの地理学者リヒトホーフエンが、その著書『シナ China』(1 巻、1877 年)においてザイデンシュトラッセ *Seidenstrassen* (ドイツ語で「絹の道」の意)として使用したのが最初で、当時、リヒトホーフエンは東トルキスタン（現在の中国・新疆ウイグル自治区）を通るキャラバン隊商路を指していたそうですが、後にスウェーデンのヘディン、イギリスのスタインらは、この東西の交流が西域のオアシス地域に限らず、さらに西のオアシスを出て、海を越えローマに至っていたことに着目し、中国の長安（今の西安）とローマを結ぶ交易ルートの全体をシルクロードと呼ぶようになりました。いずれにしろ、この地域はかつて東西交流に主用な役割を果たしたに間違いありません。というのは、東西を結んだあのシルクロードのすべてのルートがこの東トルキスタンを通っていたのです。当時のシルクロ

この前、京都の上醍醐寺に行くために、1時間半くらい山を登りました。途中、山登りに向いていない靴、ハイヒール、ロングブーツなどを履いていた人がかなりいました。常識があることより格好を意識しますから、足が痛いことを我慢して楽なウォーキングやスニーカーより、おしゃれに見えるような靴を選んでいました。

しかし、全てのことに「我慢が美德」とは言い切れません。当然我慢しなければならない時、我慢する必要のない時、むしろ怒る時は怒った方がいい時など、ケースバイケースで使い分けるべきです。我慢が過ぎるとストレスがたまって、鬱病になるかもしれません。仕事で毎日遅くまで残業が続き、我慢し過ぎたら、過労死が起きるかもしれません。

This map illustrates the geographical context of Central Asia, highlighting its position between Russia to the north, China to the east, and India to the south. Key features include the Caspian Sea to the west, the Pamir Knot (Pamir Knot) in the south, and the Junggar Basin (Junggar Basin) to the north. The map also shows the borders of Kazakhstan, Kyrgyzstan, Uzbekistan, Turkmenistan, and China, along with the locations of major cities and transportation routes.

ドのルートといえば天山北路（天山山脈の北のオアシスを結んだ道）と天山南路（天山山脈の南のオアシスを結ぶ道）があり、天山南路がさらに西域北路（天山山脈の南側のふもととタクラマカン砂漠の北側のオアシスを通る道）と西域南路（崑崙山脈の南側のふもととタクラマカン砂漠の南側のオアシスを結ぶ道）に分かれていましたが、そのすべてのルートがこの地域の中にあつたため、当時大繁栄しました。

シルクロードは、通過する地域である中央アジアのことを指す言葉としても使われることがあり、中国で伝統的に言った「西域」（さいいき）という言葉とともに広く知られています。

中央アジアは、東西文明の交流を支えたシルクロードのルート上にあります。この道を通じて古代より物資の移動だけでなく、文化交流が盛んに行われました。インドで発生した仏教も、中国、朝鮮半島、日本に伝えられ、また約1300年前にはシルクロードを通じて伝わった様々な文化により国際色豊かな天平文化が開き、日本と中央アジアのきずなも生まれました。

中央アジアはユーラシア大陸のほぼ中央に位置し、中国、ロシア、中東諸国などに囲まれています。西部のカスピ海周辺は低地、東部から南部にかけてはアルタイ山脈、パミール高原、天山山脈が連なり、その他は砂漠とステップ（草原地帯）が広がります。ステップ遊牧民、オアシス定住民が点在する地域ですが、歴史的にはペルシャ帝国、モンゴル帝国、帝政ロシアなどの支配を受けてきました。天然資源が豊富で、石油、石炭、天然ガス、鉄、銅、鉛、亜鉛、タングステン、ウラン、金を産し、農牧業も一部では盛んです。中央アジアには東トルキスタン、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンなどの6カ国（地区）があります。あわせて約7500万人が住み、主な宗教はイスラム教スンニ



一派、ロシア正教などです。日本人とも顔立ちが似ている民族が多くいることもあって、中央アジア各国における親日感是非常に高く、日本との関係強化に熱いまなざしが向けられています。

そのなかでも、新疆ウイグル自治区はそのシルクロードの中心地域で、中央アジアの東部、中国の西北部に当たり、面積はおよそ164万平方キロ、日本の5倍弱に当たります。

この地域にウイグル人をはじめ、漢族、カザフ、回族、キルギス、モンゴル、タタール、ウズベク、タジクなど多民族が住んでいます。各々の民族が独自の言語、文字および宗教を持っており、各自の生活スタイルで生活しています。冠婚葬祭などの儀式も宗教によって違っていますが、同じ宗教でも細かいしきたりは異なります。例えば、ウイグル、カザフ、キルギス、タタール、ウズベク、タジク、回族などの民族は皆イスラム教徒ですが、これらの民族の中でも名前、服装、食べ物などの面で多少の違いが現れます。しかし火葬は許されない、豚肉および豚肉関連の材料を含んだ食品を口にしてはいけない、などの共通の習慣がイスラム教では堅く守られています。

ウイグル人にも、日本人にもさまざまな生活習慣があります。とても似ているところもあれば、ずいぶん違うと感じたところもあります。日本に留学した当初、日本人が接客の時に座布団を出したり、お茶をお盆にのせて出したりするのを見て、島国日本と「ユーラシア大陸のおへそ」と言われているウイグルとは、何千キロメートルも離れているにもかかわらず似たような習慣があるので、とても親近感がわきました。ウイグル人もお客様に心地よく座ってもらうために、緞子（どんす）で作った敷物を敷き、お盆でお茶やご飯を出すのです。これらは、ウイグル人のお客様を大事にする意志表現の一つです。

それから日本人は食事の前に「いただきます」、後に「ごちそうさまでした」とよく言いますが、ウイグル人も食前に「ビスミッター」（コーランの語句 アッラーの御名において）と言います。（食事の前に限らず、他の日常のことをする前にも「ビスミッター」と言います。そして食事が終わったら、イスラムの宗教指導者あるいは年配の方の主導で、みんなが一斉に両手のひらを上にして手前にあげ、アッラーを称えると同時にアッラーの加護を求める祈りをします。

生活習慣の違いや共通するところは世代や時代、地域などによってもあります。たとえば「人のお化粧をする」ことに対して日本の若い人の考え方は年配の方とずいぶん違うようです。これら

の理由などを細かく追求していけば、表面的なことにとどまらず、より深い文化の共通性と多様性について一層理解が深まるのではないかと思います。文化の共通点と相違点という観点にとっても興味深く感じています。



卒業生からのたより

裘少華（中国）

拝啓

また、日差しに春の訪れを感じる頃になりました。和歌山の皆さん、お元気ですか。

私は 2004 年、浙江師範大学の交換留学生として、和歌山に留学した裘少華です。本当にご無沙汰しております。申し訳ありません。

実は、私は今、再び日本にきています。今度は学生ではなく、社会人として、会社の研修で来ました。今回の研修期間は、4 年前の留学と同じで一年です。もうすぐ、私は一年間の研修を終えて、帰国します。

8 月の夏休みに、私は和歌山に行ったことがあります。自転車で、かつて住んでいたところを走りました。和歌山大学の校庭を散歩しました。3 年ぶりに訪れましたが、至るところに、昔の出来事の記憶が蘇りました。寂しいこともあれば、楽しいこともあります。はじめて遠く親元を離れて、この新しい地に溶け込もうとしていた自分の姿が浮かんできました。3 年前の私は、なぜ日本に来たのかよく分かっていました。ですから、せっかくなのでチャンスを逃すことなく、真心で、初めての日本、日本人を感じようと頑張っていました。良し悪しを問わず、私はただ理解しようと思いました。どんな時でも迷ったことはありません

でした。留学時代に出会った人々のおかげで、私は充実した海外生活を送ることができました。一緒に作った思い出が好きでもなかった日本に引き寄せる力になりました。いつか、また、大好きになった日本に行きたいとずっと思っていました。

夢は叶うために存在しているものだと今は信じています。自分が持っていた夢を私は叶えたのです。去年の 3 月に、私は会社の研修派遣で来日することができました。しかし今回、私は迷ってしまいました。会社の研修は「日本の生活を経験して、日本語を覚えよう」というコンセプトの日本語研修なので、自分は何をしたらいいのか分からなくなりました。いつも、こんなことは私は 3 年前経験したじゃないかと感じていました。時間をムダにしている気がしていました。会社のお金で来たのだから、もっと会社にとっていいことをしなければならなかったと考えていました。3 年前のように、心が開けませんでした。自分を見失ったくせに、私は弱みを見せたくないの、気強くしていました。そんな時、和歌山の思い出が私を支えました。ようやく、自分ができることを見つけました。私は近くの老人介護施設のボランティアになりました。そこでの人々とのコミュニケーションで、自分は介護についての知識を知ることだけではなく、自分は研修生の身分を捨てて、本当に日本で生活している実感ができました。

お正月の休みに、中国の上司が日本に帰国した折に、会いに来てくれました。日本の留学生活と研修生活のことを私は聞かれました。その時、はじめて、私はこの 2 年の経験を深く考えました。3 年前の留学は夢のような幻の 1 年でした。私の記憶のアルバムに一番輝いているページだと思います。今年の一年間は、責任感が感じられる実のある一年間です。どちらも、2 年の間に付き合ってきた人々のおかげです。これらの付き合いには、長年続くものもあれば、一生一度しかないものもあると思います。しかし、いずれも、私にとって貴重なものです。それこそ日本文化でいう「一期一会」のことなのでしょう。これからも、私は「一期一会」の思いをこめて、人生の瞬一瞬を大切にしていこうと思っています。

みなさんにありがとうとお礼を言いたいです。また、これからも見守ってください。いつか、私はまた日本に、和歌山に来ると信じています。みなさんとの再会を楽しみにしています。

では、くれぐれも、体に気をつけて、元気でいて下さい。

敬具

新留学生紹介

モハマディ ホセイン (アフガニスタン)

私はホセインと申します。アフガニスタン出身です。主にペルシャ語を話します。私の名前は以前のイラクのある大統領の名前と似ているので、名前を言ったら、みんなびっくりします。さらに、顔も日本人の顔と似ているので「アフガニスタン人です」と言ったら、みんなもっとびっくりしますね。

私は2007年4月に日本に来て、大阪外国語大学で6ヶ月間日本語を勉強しました。和歌山に来て、半年ぐらいになりました。和歌山は静かで人々は本当に優しく勉強にいい所です。私は日本へ来る前に、日本語を全然勉強しませんでしたので、日本へ来てから大変困りましたが、まわりのやさしい日本人のおかげで、すぐ日本になれました、みなさんにたくさんお世話になりました。

私は9人家族です。7人兄弟の中、私は上から三番目です。私以外、家族みんなイランに住んでいます。今年の春休み、家族と会うためイランに帰りました。

イランのテハラン空港で、二人の日本人観光客と出会いました。彼たちは初めてイランで旅行し、

ペルシャ語が全然わかりませんでした。私のお父さんは彼たちを家に招待しました。彼たちは私の家で二週間泊って、私の家族と一緒にいろんなところを観光して、楽しい時間を過ごしました。みなさんはイランとかアフガニスタンへ行きたかったら連絡してくださいね！

今年4月から経済研究科で経営学を勉強します。日本語や専門の勉強は難しいですが頑張ります！

呉 青湖 (中国)

みなさん、こんにちは。私は呉 青湖と申します。朝鮮民族ですが朝鮮語が上手に喋れないので、今頑張って練習しています。(恥ずかしいですね)中国の黒竜江省から来ました。今は和歌山大学経済研究科の1年生です。和歌山に来る前には大阪で2年間日本語を学びました。4月1日和歌山に来たばかりです。ここに来る前には和歌山について、気候が大阪より暖かい以外は何にも知らなかったです。しかし、ここに来てから和歌山の人々は天気が温かいように親切なことをすぐ感じました。特にWIN コンコードの支援から和歌山の人々の熱意をもっともつと感じました。本当に和歌山に来てよかったと思っています。

私はスポーツが好きです。上手なスポーツがありませんけど、ほとんどのスポーツはできます。



誰かスポーツが好きな人がいたら、いっぱい誘って下さい。

留学生の皆さん、皆さんもいろいろな夢を追うためにここまで来たと思います。だから、皆さんはお世話になった日本人に感謝する心を持って、自分の夢を実現しましょう。

武 強 (中国)

武強と言います。1987年1月6日生まれで、今年21歳で、男です。吉林大学経済学院の学生です。今年は学部2年生です。

2000年の9月、長春外国語学校に入って日本語を勉強し始めました。日本語の勉強を通じていろいろな日本のことを知りました。いつか日本へ行って自分の目で日本を見たいと思いました。

2006年の9月、吉林大学に入学しました。吉林大学での専門は国際経済と貿易です。2008年4月、吉林大学と和歌山大学との交換留学に参加して日本へ来て勉強することができました。自分の夢を実現しました。

私の趣味はスポーツです。スポーツなら何でも好きです。特にサッカーと卓球が大好きです。国ではよく友達とサッカーをします。また、コンピュータゲームも好きです。

ムハンマド アブドゥ (インドネシア)

はじめまして。わたしはアブドゥです。インドネシアのマカサーから来ました。マカサーには美しいビーチがあります。わたしは国で高校の学生を教えています。専門は心理学です。でもわたしの国では心理学を教えていません。英語を教えています。どうして心理学を選ぶ理由ですか。教える時、心理学を使います。心理学は学生にとって役に立ちます。だから心理学が大切だと思います。

わたしの趣味はサッカーとジョギングです。日本に来る前、わたしは日本語をぜんぜん話せませんでした。日本語研修コースで勉強しましたので、話すことができるようになりました。

日本人はにぎやかで日本は楽しいと思います。

ジョエル ドゲル アンゲル (フィリピン)

はじめまして、私はジョエルです。昨年10月に日本へ来ました。そして、今年の2月まで、大阪大学で日本語の集中研修を受けてから和歌山へ来たところです。日本へ来る前には、日本ではスーパーや郵便局では英語が話せると思っていたのですが、来てみると全く通じなくてびっくりしました。

今回、日本政府の教員研修奨学金を受け、来日



しました。フィリピンでは、ダバオ市のフィリピン科学高校南ミンダナオ校で13年間物理を教えてきました。

和歌山大学では、教員研修プログラムによって物理学の研究をします。日本政府の奨学金を受けることができたこの素晴らしい機会に、日本の教育制度のほか、日本のこと、日本の人々、文化、生活様式についてもさらに勉強したいと思っています。

私の趣味は、料理、ボーリング、ギターです。和歌山の皆さん、どうぞよろしくお願いします。

サラ ジェイン カバルキント (フィリピン)

はじめまして、わたしはサラです。フィリピンのリザルから来ました。

和歌山大学の教育研修生です。わたしはリザル高校でコンピュータを教えていました。リザル高校は世界の高校の中で学生の数が一番多い高校です。1993年から2002年までギネスブックにのりました。わたしは、映画、読書、コンピュータゲームなどを楽しめます。音楽を聴くのも好きです。よく、Eメールを送ります。手紙はあまり書きません。

タガログ語と英語とちょっと日本語を話します。日本に来た時、わたしはぜんぜん日本語ができませんでした。ひらがなもカタカナも書くことができませんでした。でも、今は書くことができます。どうぞよろしくお願いします。

アーマド シャキル (マレーシア)

はじめまして、私の名前はシャキルです。私はマレーシアから来た留学生です。3月22日に日本に着きました。そして翌日和歌山に来ました。私は和歌山大学のシステム工学部の学生です。学科は光メカトロニクス学科です。これから4年間和歌山で勉強していきます。

私の家族は6人です。両親と弟と2人の妹と私

です。父の仕事は研究者です。植物の病気に関する研究をしています。母は働いていません。家で私達の世話をしています。弟は今高校生で、将来日本で勉強したいと言っています。妹達は中学校と小学校で勉強しています。家に6匹の猫がいます。家族の全員は猫が大好きです。私も猫が大好きです。

私は中学校で外国語として日本語を少し習いました。それをきっかけにして、日本のことが好きになりました。その頃から将来日本の大学に入りたいという希望を持つようになりました。今日本に來られて、とても嬉しいです。

これからの4年間は楽しく和歌山で生活をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

呉 懿奇 (中国)

私は呉懿奇と申します。中国で高校3年間日本語を勉強しました。昨年の10月中国の瀋陽市から京都へ来ました。私は昨年10月から2月まで京都の関西語言学院で日本語を勉強しました。その間に日本留学生試験を受けました。3月6日私は和歌山大学のシステム工学部環境システム工学科に合格しました。私はとてもうれしいです。

私は明るい性格です。そして、どんな困難があってもあきらめないタイプです。将来、和歌山大学でたくさんの友達を作りたいです。

私はスポーツが好きです。スポーツの中でサッカーが一番興味を持っています。そして、本を読むことも好きです。中国の文化についてたくさん知っています。将来、日本の文化も勉強するつもりです。両国の友好に貢献したいです。そして私は旅行が好きです。この半年、私はいくつかの都市に行きました。日本の景色本当にきれいです。将来、和歌山の友達と一緒に旅行することを楽しみにしています。

シモナン セバスチャン (フランス)

セバスチャン、22歳です。フランスから来ました。ここで情報工学のマスターに進むための準備をしています。3月に日本に到着しました。大学最終学年の研修をすることになっています。和歌山大学の研究室で6ヶ月間勉強します。

この6ヶ月の間には、日本語も学びたいですし、それにこの国の社会と歴史に触れるためたくさん旅行もしたいと思っています。

それが日本に來ようと思ったきっかけでした。新しい文化を発見し、異なる国の人たちと出会いたいと思っています。そしてまた、科学技術において日本は最先端をいっていますが、それをこの

目でみたいとも思っています。それは私の研究分野に関することだからです。

ユグナン トマ (フランス)

Bonjour 皆さんこんにちは。フランスから来たトマです。システム工学部で6ヶ月間の研修のため、今和歌山にいます。

なぜ日本に來ることを選んだのかというと、いくつかの理由があります。まず、エンジニアの役割は、技術的な知識を身につけるというだけでなく、あらゆる状況への適応力、そしてそのとりまく環境や仲間たちとの絆を深め、広げていくことでもある、と強く思います。異なった国へ旅をするということは、私にとって、この目的を果たすための良い方法だと思うのです。

次に、日本という国はずっと以前から興味を抱いていた国です。マンガが大好きで、伝統や文化、歴史に「とても興味をおぼえます。それに、日本料理もいろいろ味わってみたい！」

だから当然のことながら、この国でなにかを発見したい、研修を日本でやろうと決めたわけです。そして最後に、日本語を学びたいとずっと思っていて、最もいい方法はやはり日本に來ることでしょう。

私の6ヶ月の予定はとても簡単です。旅行をし、楽しむこと！まず、旅行ということでは、和歌山県とさらに一般的に言えば、関西には多くの訪れるべき場所があります。それに、東京のジブリ美術館と富士山にも行きたい。

そして2番目にやりたいことは、日本人の友人を見つけ一緒にここでの生活をしてみたいということです。

ラスロヴ ベクゾット (ウズベキスタン共和国)

私は中央アジアに位置するウズベキスタン共和国から来た留学生です。ベギーと呼んで下さい。私は音楽とビリヤードが好きです。

国の首都はタシケント「TASHKENT」です。国名は、ウズベク人の自称民族名 O'zbek (オズベク) とペルシャ語で「〜の国」を意味する -istan (ウズベク語では -iston) の合成語です。オズベクは、テュルク語で「自身が主君」を意味します。

国民は2,525万人で、ウズベク人80%の多数を占め、5.5%のロシア人の他、タジク人(5%) カザフ人(3%)などの多数の少数民族が住んでいます。公用語はウズベク語。昔は旧ソビエト連邦の共和国だったから多数の日本人は知りません。

1991年に独立したので、今は中央アジアでの経済が一番いい国です。

旅の日記

陳 磊 (中国)



2月11日の朝、私たちはバスに乗り、和歌山を離れ、西名阪自動車道を通って名古屋に出発した。長い間楽しみにしていた旅行が始まった。

名古屋は日本第三の大都市であり（一番と二番は、東京と大阪だ）、世界第二の自動車会社、即ちトヨタの誕生の地である。我々の第一の目的地は、名古屋市にあるトヨタ産業技術記念館だった。

トヨタは、はじめは紡織会社であった。だから記念館の一部は繊維機械館だった。1935年、欧米から導入した技術を通して、トヨタは日本で第一号の国産乗用車を製造した。その乗用車及びその製造過程を自動車館では展示していた。

ここで、私はトヨタが製造したクラウン、カローラ、LEXUSなどの車の初期モデルを見た。それぞれの初期モデルは当時、自動車市場で大成功を収めた。そしてその後、それらはトヨタの歴史上最も有名な自動車シリーズになった。ここでは、車の運転原理の展示、トヨタが開発した各型のエンジン、形のユニークな未来概念車もあった。それらが私に深い印象を与えた。

この記念館が展示しているのは、日本人の誇りではないだろうか。トヨタは日本産業の発展、更に日本経済成功の縮図であった。いつかきっと、私たちの国も、このような誇りをもつようになるだろう。

バスは名古屋を出発し、北の方へ向かった。まもなく岐阜県に入った。バスの窓の外は、雪に覆われた山並みが連綿と遠くまで伸びていた。緑が溢れている和歌山から、この真っ白な雪の世界に入って何か不思議な感じがした。

バスは鷲ヶ岳に入った。山の中のホテルの前で停車した。私はバスを降り、すぐに目の前の景色に夢中になった。ずっと続く山は真っ白な雪で覆われている。高さや遠さに限らず、景色は雄大だった。谷間に針葉樹林が静かに立っている。その瞬間、山の上に立って叫びたかった。このすばらしい、素敵な大自然を胸に抱き締めたかった。

荷物をホテルの部屋に置いて、すぐに温泉風呂に入った。とてもリラックスできた。その後、浴衣を着て鏡の前に回って、新撰組になった気分になった。そして、その気になって部屋を出た。でも、タイミングが悪かった。部屋の外で、一緒に来た女の子たちにばったり出会った。彼女たちはどっと笑った。それに「可愛い」って評価された。やはり新撰組じゃなくて、クレヨンしんちゃんを感じだったのか。

浴衣を着てホテルの食堂で料理を食べた。美味しくて、お腹いっぱいになった。その後、皆と一緒にワインを飲んで話した。残念ながら、清酒はなかった。でも、コーラで割ったウィスキーも最高だ。夜、畳の上でゆっくり寝た。次の朝、元気よく起きられた。

朝のスキー場には、雪がたくさん降っていた。スキー場では軽快な音楽がかかっていた。スキーの先生の指導で、我々初心者には緩やかな坂でスキーの練習をし始めた。滑る、止まる、方向転換、基本的な動作はそんなに難しくはなかった。私はすぐに滑れるようになった。でもほかの動作は問題だった。私は止まらなくて、方向転換もできず何度も倒れた。中谷先生が言ったこと「止まらない、それが問題だ」は、やはりそういう意味か。

最後に、先生は我々を連れて頂上へ向かい始めた。本当にあの山の上から滑るのか？私は頂上を見上げて、深く息を吸った。こんな急な坂道、こんな高い山。頂上から滑っても、本当に大丈夫なの？

そして、私たちはリフトに乗った。下を見ると、雪に覆われた白い坂道が針葉樹林の中に伸びている。スキーのうまい人たちが次々にビューと滑って行く。初心者は時々雪の上で倒れた。頂上が近付いてくると、緊張してきた。

ちょっと怖かったけど、私は勇気を出して滑り始めた。スピードが出すぎてブレーキをかけられない時に、倒れるのは自らを救う唯一の方法だ。だから俺はひっきりなしに倒れた。多分百回以上かな？やっと着いた。服の表側は氷と雪がいっぱいついていて、裏側は汗でびしょりだった。そうして、スキー学校を卒業した。皆と一緒に先生にお礼を言って別れた。もう一度自分で頂上にの

ぼって滑った。二度目は、私も進歩した。スピードをコントロールして、倒れる回数も減った。そろそろ帰る時間だった。この楽しい旅行が終わりに近づいた。もっと楽しみたかった。でも大丈夫。今度、皆で一緒に風と雪の中で自由に走ろう。

人間関係に感謝

トゥティ ラヒザ (マレーシア)

2002年に和歌山に来てからあっという間に6年たちました。日本の生活が私を成長させたと言っても過言ではありません。和歌山は大阪や神戸ほどにぎやかな場所ではないけど、自然に囲まれた穏やかな所です。私は人々のぬくもりに包まれながら平凡で幸せな生活を送りました。和歌山にいるのが長すぎたせいか、周りの人々は私が当たり前のようにならずと日本にいる感じで接触しています。「私はもうすぐ帰国なのですよ」と言うと、「ええ、もうそんな時期なの?」と言われる。こんな反応をもらうのがとてもうれしくなります。私はそれほど日本にすっかり馴染んだと言えるでしょう。

大学での勉強は大変なときもあるかもしれませんが、それを乗り越えることで立派な大人になれるでしょう。いろんな人とうまく付き合うことが日本で生活を楽しむ過ごす秘訣です。そのことを大切にすれば落ち込んでいるときも絶対に立ち直れます。友達是一生の宝物です。留学生の仲間はもちろんのこと、日本人との関係も大事です。私の専攻はシステム工学ですので、ストレスが溜まりやすいです。ストレスを発散するには実験のことを友達に話したりしました。友達は私が話した内容を理解できなかったかもしれませんが、話すことによって自分が楽になりました。だから、私からの後輩たちへのアドバイスは、自分でストレスを抱えるのではなく他人に話したほうが良いということです。そして勉強するときはしっかり勉強し、遊ぶときはおもいっきり遊びましょう。

日本では、特に和歌山では、いろんな人に出会い、お金にかえられない貴重な経験がいっぱいありました。私は旅行することが好きで、九州から北海道まで27県に行きました。不思議なことに、和歌山から長く離れていると和歌山が恋しくなりました。早く和歌山に戻りたくなるのです。和歌山のことをすごく好きになったなと感じました。

私は6年間で、大学の勉強だけではなく、教科書にはない社会勉強ができました。アルバイトを通して新たな人間関係ができました。自分と異なる世界の人や年齢層のひとに出会いました。日本語がうまくなりたかったら、アルバイトすることがベストだと思います。分からないことがあれば恥ずかしがらずに、勇気を出して言葉にします。言葉にしないと知らないことが知らないままに終わります。

和歌山に来て本当によかったです。大学を卒業して次の人生の階段を登っても、ここでの経験やここで得た知識が私のこれからの人生に反映すると思います。マレーシアに帰っても、またいつか私の第二の故郷、日本に戻って来たいです。

「苦あれば楽あり」このことわざを思い出し、勉強に励んでください。

最後に、皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。大変お世話になり本当にどうもありがとうございました。

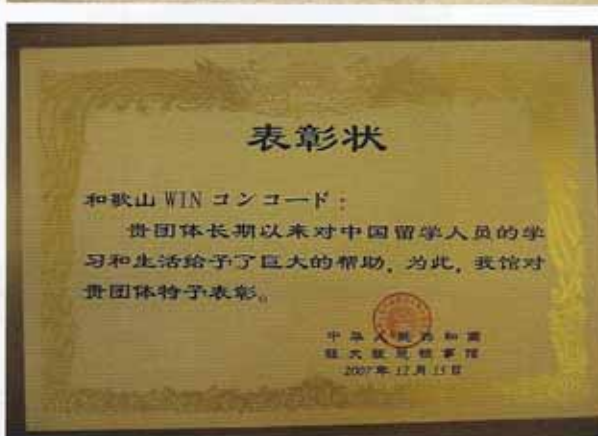
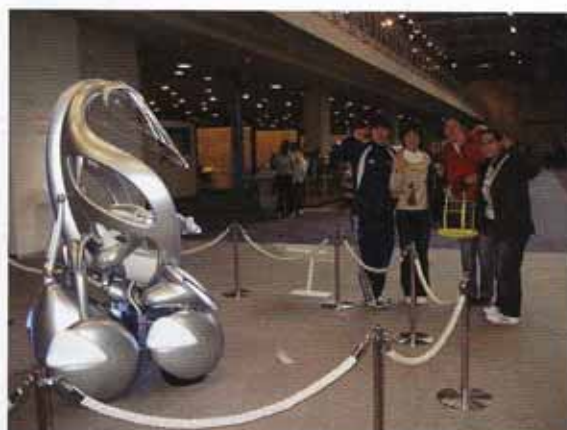
2007年度 活動経過

4月7日	新入生歓迎花見 (和歌山城)
5月12日	WINコンコード総会・交流会
5月13日	和歌祭
8月4日	ぶんだら踊り
8/18・19	紀州よさこい踊り
8/25~26	サマーキャンプ (清水町)
9月25日	企業見学 (關花王)
10月21日	第15回留学生の故郷を語る集い
11月11日	大学祭 模擬店協力
12月23日	八潮狩り・植物公園緑花センター
1/1~3	お正月 (ホストファミリー)
2/11~12	トヨタ産業技術記念館見学とスキー
3月2日	第16回留学生の故郷を語る集い
3月25日	卒業生を送る会
年間	住宅紹介・入居・転居の支援 生活用品の貸与、生活情報提供 ホストファミリープログラム

※ WINコンコードの留学生への支援活動に対して去年12月15日に中華人民共和国駐大阪総領事館より表彰状を、また本年3月28日には和歌山大学長より感謝状を授与されました。WINコンコードの活動がこうして評価されるのは、会員の皆様方のご協力のおかげです。お礼と共にご報告いたします。







WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

<http://www.wakayama-info.net/>

E-mail win@infonet.co.jp